

アメリカ英語とイギリス英語の慣用句の相互浸透について  
——オンライン・コーパスを活用して——

伊 藤 一 正

北海道情報大学

Mutual Permeation of American and British Idioms  
—— A Survey Using Online Corpora ——

Kazumasa ITO

Hokkaido Information University

平成28年11月

北海道情報大学紀要 第28巻 第1号別刷

## 〈論文〉

## アメリカ英語とイギリス英語の慣用句の相互浸透について

—— オンライン・コーパスを活用して ——

伊藤一正\*

**Mutual Permeation of American and British Idioms**

—— A Survey Using Online Corpora ——

Kazumasa ITO\*

## 要旨

本稿は、アメリカとイギリス各々で発祥した慣用句が互いの国への程度浸透しているかを、英国の小説 *Harry Potter* シリーズ全7巻で使われている慣用句をもとにオンライン・コーパスを活用して分析したものである。その結果、アメリカで発祥しイギリスでも定着した慣用句が、イギリス発祥でアメリカにおいて使用されているものより著しく多いことを確認した。同時にこうした調査において活用したコーパスである Google Books Ngram Viewer の信頼性の高さと、*Oxford English Dictionary* の地域表示が正確さと一貫性を欠く場合があることも示された。

**Abstract**

This paper examines the mutual permeation of American and British idioms by using online corpora. Idiomatic expressions were chosen from the seven books in J.K. Rowling's *Harry Potter* series. An analysis revealed that the number of expressions of American origin is significantly higher than those of British origin. At the same time, Google Books Ngram Viewer proved highly reliable in this type of investigation, while labels in the *Oxford English Dictionary* that indicate the regional origins of terms were, in some cases, inconsistent and imprecise.

## キーワード

コーパス (corpus, corpora), 慣用句 (idiom), 発祥(origin), 同化 (assimilation), 使用頻度 (frequency of use)

---

\*北海道情報大学情報メディア学部准教授 Associate Professor, Department of Information Media. HIU

## 1 はじめに

2010年10月16日付けの英国の新聞 *The Guardian* (電子版) は“Racy Yankee slang has long invaded our language”という刺激的な題のコラムを掲載し、語彙と慣用句の米国語法 (Americanism) の流入を止められないと嘆いている<sup>[1]</sup>。 *Oxford English Dictionary* (CD-ROM 版。以下, OED) にも orig.US. (米国発祥) と記されたおびただしい数の語彙と慣用句をみることができる。

この大西洋を挟む両国で使われる言語が、かつて東から西への一方通行だったものが、現在は反対のベクトルに変わったのにはいろいろな理由があったであろう。特に米国が 20 世紀に入って経済的に力を持つようになったことも一因と考えられるが、英国がビクトリア朝時代、世界を植民地化して権勢を誇った時代にすらこの傾向は強かったと *The Guardian* は記している。

筆者はこうした流れが現在どのようになっているのか、英国の小説 *Harry Potter* 全 7 巻の中で筆者がこれまで読んだ書物や辞書等で米国起源とされていた慣用句を選びコーパス (corpus) を活用して検証した。

検証した慣用句の中には、すでに OED などの辞書や同じ目的で書かれた語学書に米国起源という表示がなされているものもあるが、それらはコーパスを使って可視化されたものではなく、本研究はそうした辞書の表示の確認という意味合いも含んでいる。

さらに、数としては米国起源の慣用句に比して少ないが、英国起源の慣用句で、できるだけ 20 世紀以降に米国に輸入された英国語法 (Britishism) と思われるものも同様にコーパスで英国起源であることを確認し、米国の人気テレビ番組の SCRIPT などから米国における使用例を例示した。

## 2 先行研究

米国語法の英国への浸透についての詳細かつ広範にわたる研究としては松田 (1975)<sup>[2]</sup>(1983)<sup>[3]</sup>(1984)<sup>[4]</sup>(1985a)<sup>[5]</sup>(1985b)<sup>[6]</sup>が挙げられる。『米語の衝撃』(1975)では英国作家 Ian Fleming の 007 シリーズをはじめとする英国文学作品や英国と米国発行の辞書、さらには語学書・論文を中心として、語彙と慣用句の米国語法が英国における英語に与えた影響を綿密に調べている。また「米語の衝撃再考」と題して関西学院大学研究紀要に 3 編の論文を投稿し、英国における質問表調査をさらに進めた。その後、著書『米語のインパクト—当てにならない辞書の標示—<sup>[7]</sup>』(1987)においては再度、英米両国で質問表による大規模な実地調査を行い、いかに辞書による英米両国の語法に関する記述に誤謬が多いかを指摘している。

## 3 調査方法

松田は文献による調査を主としていたが、前掲書(1987)において 1964 年に米国で開発された Brown Corpus と 1978 年に完成した英国の LOB Corpus (Lancaster-Oslo-Bergen Corpus) を使って apartment と flat の英米における使用頻度を比較している。当時のコーパスは品詞を指定する機能がなく、アパートを意味する flat を名詞に限定できなかったため、コーパスからは明確な答えを見出せなかった。

現在コーパスは大きな発展を遂げ、品詞を指定して容易に単語のある時点における使用頻度、そして使用頻度の推移まで詳細な調査が可能である。それと同時に、語彙や慣用句の出現時期、さらに英米両国におけるそれらの比較をグラフで明示することができる。

筆者は今回 Google Books Ngram Viewer (以下, GBNV) を活用して英国小説 *Harry Potter* を中心とした小説やテレビ・ド

ラマなどに使われている米国起源の慣用句、及び英国で誕生し米国へ渡り定着した慣用句も同時に調査を行い、後者に関しては米国での使用例を示した。

具体的には筆者がこれまで読んだ書物や辞書等で米国起源とされていた慣用句を英米両国の出現時期が示される文字列でGBNVに打ち込み、グラフ上で確認をした。打ち込む文字列は米国は(検索する慣用句:eng\_us\_2012)、英国は(検索する慣用句:eng\_gb\_2012)である。また、必要に応じてNew Corpus of Contemporary American English(以下, COCA)及びNew Corpus of American Soap Operas(以下, SOAP)も併用した。

伊藤(2015)<sup>[8]</sup>は両国の出現時期が重なる、あるいは明確に判断できない場合は文献調査の必要性を示した。今回の調査においてもそうした慣用句がある場合は同様の調査を予定していた。しかし、そうした例を除いては、GBNVでグラフ表示すると明らかにどちらかの国における語彙や慣用句の出現が時期的に早いと看取できる割合が高いこと、さらには、明確に判断できない場合でも両国の出現時期がグラフ上で重なり合うことはあっても、米国起源を示すグラフ線と英国のそれとが逆転することはないことが分かった。そのことは前掲書の*Harry Potter*に使われている13の慣用句の調査からも分かる。今回は1例のみ最初に示されたグラフから明確に読み取れなかったが、さらに調査する時期を調整して狭めた、より詳細なグラフ表示を行った結果、出現時期の特定が可能となった。

## 4 米国起源で英国においても使用される慣用句

### 4-1 a pain in the ass

米国の俗語表現 a pain in the ass は「悩み

[頭痛]の種<sup>[9]</sup>」を意味するが、米国では婉曲語法として ass の代わりに neck を使うことが多い。この表現が英国に伝わり、俗語として arse や bum が代用されるが、米国と同様に neck も用いられる。図1で看取できるように米国における ass の使用頻度に比して英国の bum の使用頻度は相当低く、assの方が使用頻度が高い。しかしOEDは a pain in the neck 及び a pain in the arse のみ記載し、a pain in the ass には触れていない。

例(1)は、魔法の杖で空中を飛びながら行う競技についての場面で、杖に載っているとお尻におできができるので乗りたくない Ron が言っているところである。競技が「頭痛の種」だという意味も含んでいる。arse か bum のどちらかが省略されていると推測される。

図1の青線が米国における a pain in the ass、橙色の線が英国におけるそれを、さらに緑線と赤線はそれぞれ英国における a pain in the arse と a pain in the bum を表す。図2以降は、全てのグラフで青線は米国、赤線は英国における慣用句の出現時期の使用頻度の推移を示している。

(1) ‘But you get these massive pus-filled boils, too,’ said George, ‘and we haven’t worked out how to get rid of them yet.’ ‘I can’t see any boils,’ said Ron, staring at the twins. ‘No, well, you wouldn’t,’ said Fred darkly, ‘they’re not in a place we generally display to the public.’ ‘But they make sitting on a broom a right **pain in the**—’<sup>[10]</sup>

(2) ‘Morning, Reg!’ called another wizard in navy blue robes as he let himself into a cubicle by inserting his golden token into a slot in the door. ‘Blooming **pain in the bum**, this, eh? Forcing us all to get to work this way! Who are they expecting to turn up, Harry Potter?’<sup>[11]</sup>

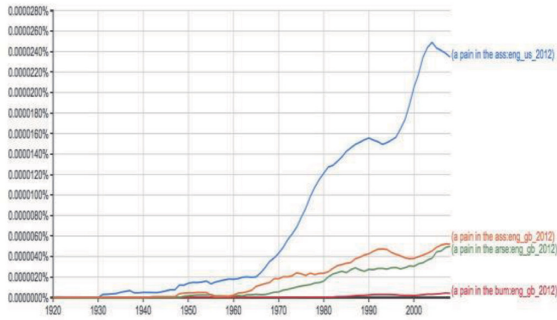


図1 a pain in the ass (arse, bum)の英米の出現時期

#### 4-2 cough up

OEDはこの慣用句を米国起源としている。「<金・情報などを>しぶしぶ[なんとか]出す[渡す]<sub>[12]</sub>」の意味である。

なお、この表現には「咳をして[痰・血などを]吐き出す<sub>[13]</sub>」の意味もあるため、cough up the moneyと打ち込んだ。Ammer (2013)は*The American Heritage Dictionary of Idioms* (以下、AHD)で1800年代の終盤に出現したとしているが<sub>[14]</sub>、図2のグラフもそれに近い時期に出現したことを示している。

(3) George laughed very bitterly. ‘Yeah, that’s what we thought, at first. We thought if we just wrote to him, and told him he’d made a mistake, he’d **cough up**. But nothing doing. Ignored our letter. We kept trying to talk to him about it at Hogwarts, but he was always making some excuse to get away from us.’<sub>[15]</sub>

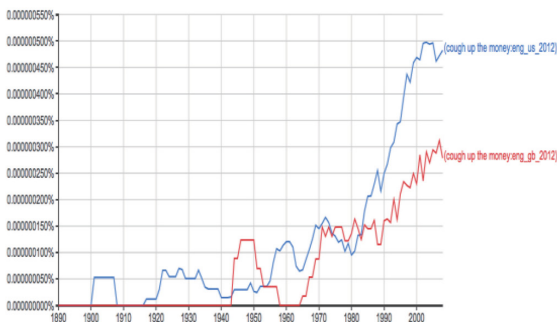


図2 cough up the moneyの英米の出現時期

#### 4-3 get a grip on oneself

OEDに記述はないが、この慣用句は米国起源であることは図3のグラフを見れば一目瞭然である。「自制する, 気を落ちつける<sub>[16]</sub>」の意味を表し、会話でも書き言葉としてもよく使われる表現である。例(4)は動詞をregainに置き換えた変異型である。

AHDIは1800年代終盤に出現したと記しているが、図3のグラフからもそれを読み取ることができる。

(4) ‘P-P-Professor McGonagall!’ Hermione gasped, pointing into the trunk. ‘Sh-she said I’d failed everything!’ It took a little while to calm Hermione down. When at last she had **regained a grip on herself**, she, Harry and Ron went back to the castle<sub>[17]</sub>.

(5) ‘Are you telling me,’ she said, lowering her voice so that the group of curious Ravenclaws behind them could not hear, ‘that after the warning I gave you last Monday you lost your temper in Professor Umbridge’s class again?’ ‘Yes,’ Harry muttered, speaking to the floor. ‘Potter, you must **get a grip on yourself!** You are heading for serious trouble! Another five points from Gryffindor!’<sub>[18]</sub>

(6) ‘Yes, I do,’ said Hermione. ‘The true story. All the facts. Exactly as Harry reports them. He’ll give you all the details, he’ll tell you the names of the undiscovered Death Eaters he saw there, he’ll tell you what Voldemort looks like now—oh, **get a grip on yourself,**’ she added contemptuously, throwing a napkin across the table, for, at the sound of Voldemort’s name, Rita had jumped so badly she has slopped her glass of

Firewhisky down herself<sup>[19]</sup>.

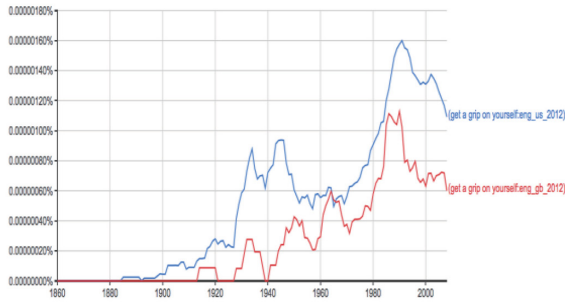


図3 get a grip on yourself の英米の出現時期

4-4 jerk awake

この表現は、辞書に慣用句として表記されていないが、図4から看取できるように、1930年ころ米国で慣用表現として使われ始めた。「急に目覚める」の意味で、米国で現在もよく聞かれる、あるいは書物で目にする表現である。同義語として snap awake という言い回しがあるが、これもGBNVで比較すると米国で発生したことを明確に読み取ることができる。

(7) BOOM. They knocked again. Dudley **jerked awake**. ‘Where’s the cannon?’ he said stupidly. There was a crash behind them and Uncle Vernon came skidding into the room<sup>[20]</sup>.

(8) The thing Harry had taken to be a pile of rags prolonged, grunting snore, then **jerked awake**<sup>[21]</sup>.

(9) The empty fireplace burst into emerald green flame, making Harry leap away from the door, staring at the man spinning inside the grate. As Dumbledore’s tall form unfolded itself from the fire, the wizards and witches on the surrounding walls **jerked awake**, many of them giving cries of welcome<sup>[22]</sup>.

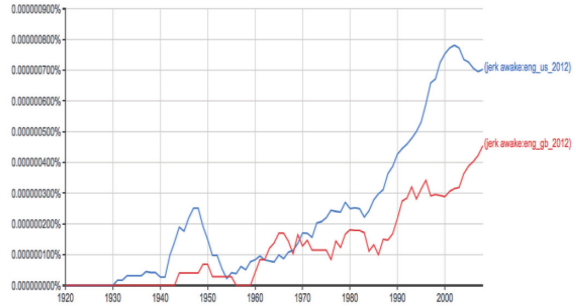


図4 jerk awake の英米の出現時期

4-5 jump on the bandwagon

米国ではパレードの先頭の荷馬車で楽隊が演奏しながら行事などに向かう慣習があったことから、bandwagon 及び jump on the bandwagon(「勝算のありそうな候補者[主義・運動]を支持する, 時流に投ずる, 便乗する」<sup>[23]</sup>) は米語発祥の語・慣用句であることが分かる。OED も orig.US のラベルを付している。

AHDI は bandwagon は 1800年代後半に、jump on the wagon は 1900年ころ使われだしたと記している<sup>[24]</sup>。

(10) ‘Oh, come on, half the people you see wearing those badges only bought them last season –’ ‘But what does it matter?’ ‘It means they’re not real fans, they’re just **jumping on the bandwagon** –’<sup>[25]</sup>

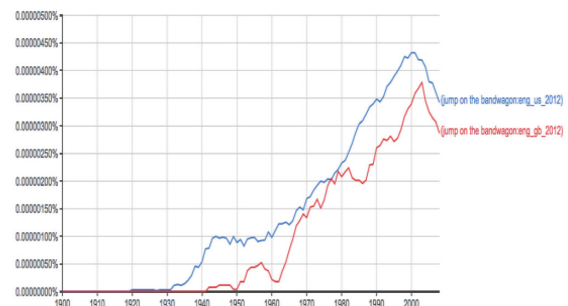


図5 jump on the bandwagon の英米の出現時期

4-6 keep an ear out

「耳をすましている, 注意深くしている」<sup>[26]</sup>

という意味のこの慣用句は OED には載っていないが, *Cambridge Dictionary of American Idioms*[27] 及び『リーダーズ英和辞典』は記載している。次の例文で示されているとおりに通常, 前置詞 for を伴う。

(11) ‘Because you never did anything for anyone unless you could see what was in it for you. [...] You’d want to be quite sure he was the biggest bully in the playground before you went back to him, wouldn’t you? Why else did you find a wizard family to take you in? **Keeping an ear out** for news, weren’t you, Peter? Just in case your old protector regained strength, and it was safe to rejoin him ...’ [28]

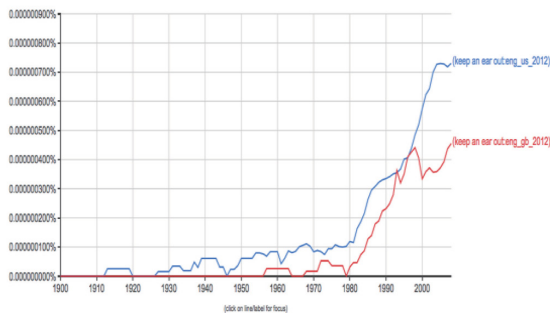


図 6 keep an ear out の英米の出現時期

#### 4-7 keep an eye out

この慣用句も keep an ear out と同じく後に前置詞 for を伴う。「見張っている, 注意して[探して]いる[29]」の意味である。OED は 1889 年に米国の Mark Twain が使用したのを初例としているが, どうしたものか米国発祥のラベル (label) が付いていない。

(12) Bagman turned most cheerfully back to Mr Weasley. ‘Couldn’t do me a brew, I suppose? I’m **keeping an eye out** for Barty Crouch. My Bulgarian opposite number’s making difficulties, and I can’t understand a word he’s saying. Barty’ll be able to sort it out. He speaks about a hundred and fifty languages.[30]’

(13) ‘Goodbye, Harry, take care,’ said Mrs Weasley, hugging him. ‘See you, Harry, and **keep an eye out** for snakes for me!’ said Mr Weasley genially, shaking his hand[31].

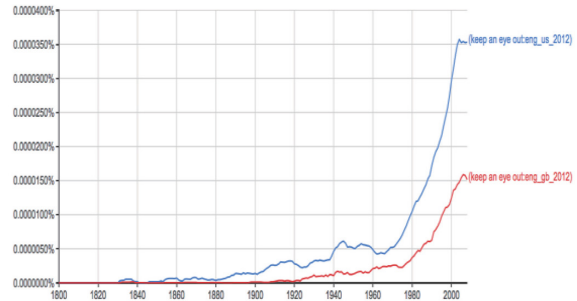


図 7 keep an eye out の英米の出現時期

#### 4-8 keep a low profile

松田(1985)は, この慣用句は 1965 年ころか, それより若干後と推定している。図 8 を見ると, 松田の推定とほぼ同時期に米国で出現しているのが分かる。「人目につかないよう心がける, つとめて低姿勢を保つ[32]」の意味を表す。松田は, 日本語の「低姿勢」の英訳として米国の外交官やジャーナリストたちは low posture を使用していたが, 元来は自動車のタイヤの種類を表すこの low profile に比喩的意味を与えて使い始めたと推測している[33]。

なお, OED は米国起源であることを表示していない。

(14) ‘So anyway,’ a stout boy was saying, ‘I told Justin to hide up in our dormitory. I mean to say, if Potter’s marked him down as his next victim, it’s best if he **keeps a low profile** for a while. Of course, Justin’s been waiting for something like this to happen ever since he let slip to Potter he was Muggle-born[34].

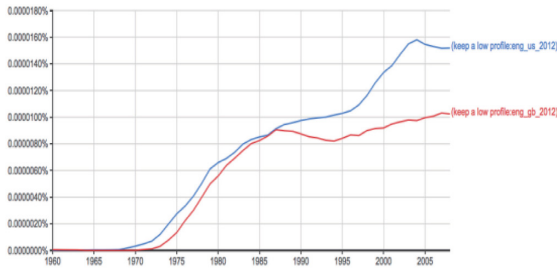


図8 keep a low profile の英米の出現時期

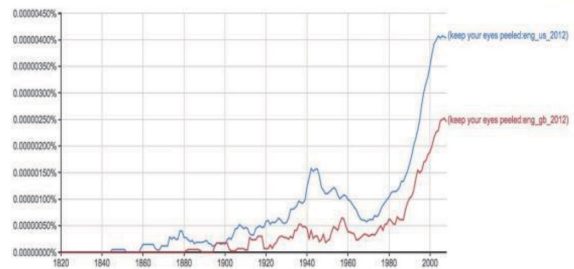


図9 keep your eyes peeled の英米の出現時期

#### 4-9 keep your eyes peeled

既出の keep an eye out と似た意味合いを持つ表現である。「油断なく気を配っている [35]」の意味で、特に会話で頻繁に聞かれる。

しかし、図 9 のように英米両国における使用頻度の割合と比べてみると、両国において、この慣用句の使用頻度は keep an eye out ほど高くない。

この慣用句について OED は米国起源であることを明示していない。AHD1 は 1830 年代に出現したと記しているが [36]、Rogers(1985) は 1853 年、米国の *Daily Morning Herald* の中に書かれた“Young man! Keep your eyes peeled when you are after the woman.”という一文を初例としている [37]。図 9 のグラフ表示もそれに近い時期を表している。

(15) “Well, look after yourselves,” said Lupin, shaking hands all round. He reached Harry last and gave him a clap on the shoulder. “You too, Harry. Be careful.” “Yeah, **keep your head down and your eyes peeled,**” said Moody, shaking Harry’s hand too. “And don’t forget, all of you — careful what you put in writing. If in doubt, don’t put it in a letter at all.” [38]

#### 4-10 keep your nose clean

OED は 1934 年に米国の John O’Hara が書いた小説 *Appointment in Samarra* を初例として挙げているが、米国発祥の記載はない。「品行を慎む、トラブルに巻き込まれないようにする [39]」を表す。AHD1 は 1800 年代の終盤に出現したと記している [40]。

(16) Admittedly, his letters were just as empty of proper news as Ron and Hermione’s, but at least they contained words of caution and consolation instead of tantalising hints: I know this must be frustrating for you ... **Keep your nose clean** and everything will be OK ... Be careful and don’t do anything rash ... [41]



図10 keep your nose clean の英米の出現時期

#### 4-11 keep tabs on

口語表現としてよく使われ、「...のあらゆる動きを追う、...を監視する [42]」を表す。松田(1975)は、この慣用句は古くは英国で使われていたが忘れ去られ、米国から「里帰り」したものと解説している [43]。OED は米国起源であることを明記している。



また, AHDI は 1800 年代終盤に出現したと記しているが<sup>[44]</sup>, 図 11 のグラフと符合する。

(17) ‘Fred and George have invented Extendable Ears, see,’ said Ron. ‘They’re really useful.’ ‘Extendable –?’ ‘Ears, yeah. Only we’ve had to stop using them lately because Mum found out and went berserk. Fred and George had to hide them all to stop Mum binning them. But we got a good bit of use out of them before Mum realised what was going on. We know some of the Order are following known Death Eaters, **keeping tabs on** them, you know –’<sup>[45]</sup>

(18) ‘Because ... because people would know if Peter Pettigrew had been an Animagus. We did Animagi in class with Professor McGonagall. And I looked them up when I did my homework – the Ministry **keeps tabs on** witches and wizards who can become animals; there’s a register showing what animal they become, and their markings and things ... and I went and looked Professor McGonagall up on the register, and there have only been seven Animagi this century, and Pettigrew’s name wasn’t on the list –’<sup>[46]</sup>

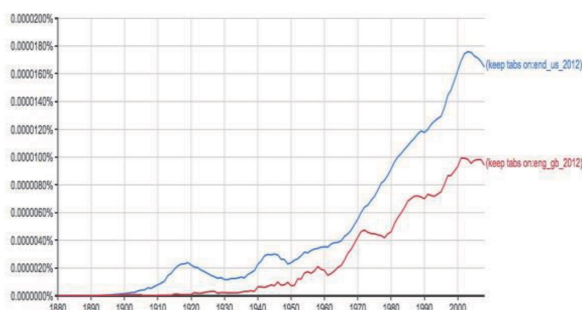


図 11 keep tabs on の英米の出現時期

4-12 make a break for it

「逃走する, 逃げ出す<sup>[47]</sup>」を表す慣用句で, Partridge(1984)は, 第二次世界大戦中, 捕虜となったオーストラリア(Australia)とニュージーランド(New Zealand)兵士が使ったのが起源としている<sup>[48]</sup>。図 12 のグラフも大戦中に急激に使用頻度が高くなっている。しかし, Wentworth&Flexner(1975)は break が脱出を意味する米国スラングとして記載している<sup>[49]</sup>。さらにグラフのように大戦よりかなり以前に出現していること, 及び米国が英国より出現時期において先行しているため, 本稿では米国起源として扱った。

なお, OED にはこの慣用句の記載はない。

(19) Harry screwed up his courage. ‘I see myself shaking hands with Dumbledore,’ he invented. ‘I – I’ve won the House Cup for Gryffindor.’ Quirrell cursed again. ‘Get out of the way,’ he said. As Harry moved aside he felt the Philosopher’s Stone against his leg. Dare he **make a break for it?** <sup>[50]</sup>



図 12 make a break for it の英米の出現時期

4-13 not give a damn

OED の初例は 1895 年に米国の Jesse Lynch Williams が書いた *Princeton Stories* となっている。これは下のグラフとほぼ一致しているが, OED に米国発祥の記述がない。両国とも動詞 care が give と並行して使われる。現在の使用頻度は give の方が高い。「ちっともかまわない, 屁とも思わない, 気にしない<sup>[51]</sup>」の意味のこの慣用句は, 後ろに前

置詞 **about** を伴うことが多い。

(20) ‘Think that matters to them? They don’t care. Long as they’ve got a couple o’ hundred humans stuck there with ’em, so they can leech all the happiness out of ’em, they **don’t give a damn** who’s guilty an’ who’s not.’ [52]

(21) In the middle of the table, Mrs Weasley was arguing with Bill about his earring, which seemed to be a recent acquisition. ‘...with a horrible great fang on it, really, Bill, what do they say at the bank?’ ‘Mum, **no** one at the bank **gives a damn** how I dress as long as I bring home plenty of treasure,’ said Bill patiently [53].

(22) ‘The thing is, Professor,’ said Filch plaintively, ‘the Headmaster will have to listen to me this time, Peeves has been stealing from a student, it might be my chance to get him thrown out of the castle once and for all —’ ‘Filch, I **don’t give a damn** about that wretched poltergeist, it’s my office that’s —’ [54]

(23) ‘But I knew, too, where Voldemort was weak. [...] She gave you a lingering protection he never expected, a protection that flows in your veins to this day. I put my trust, therefore, in your mother’s blood. I delivered you to her sister, her only remaining relative.’ ‘She doesn’t love me,’ said Harry at once. ‘She **doesn’t give a damn** —’ [55]

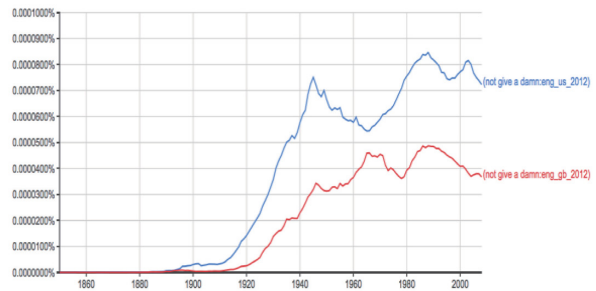


図 13 not give a damn の英米の出現時期

#### 4-14 pass out

松田(1975)は米国語法としているが、根拠については触れていない。「意識を失う [56]」という意味である。pass out には「配る [57]」という他の意味があるため、同義語の pass out cold を打ち込んだ。AHDI には 1900 年代の初頭に出現したと記載されているが、図 14 は的確にそれを表示している。

OED は pass out と pass out cold は同義語であることを明記しているが、米国起源とは記していない。

(24) Harry took his remaining hand off his broom and made a wild snatch; he felt his fingers close on the cold Snitch but was now only gripping the broom with his legs and there was a yell from the crowd below as he headed straight for the ground, trying hard not to **pass out** [58].

(25) As Harry got to his feet, he felt strangely lopsided. Taking a deep breath he looked down at his right side. What he saw nearly made him **pass out** again [59].

(26) None of the first five applicants saved more than two goals apiece. To Harry’s great disappointment, Cormac McLaggen saved four penalties out of five. On the last one, however, he shot off in completely the wrong direction; the crowd laughed and booed and McLaggen

returned to the ground grinding his teeth. Ron looked ready to **pass out** as he mounted his Cleansweep Eleven<sup>[60]</sup>.

(27) ‘I wasn’t too happy myself,’ said George. ‘They’re horrible things, those Dementors ...’ ‘Sort of freeze your insides, don’t they?’ said Fred. ‘You didn’t **pass out**, though, did you?’ said Harry in a low voice<sup>[61]</sup>.

(28) Talking excitedly, the class left the staff room. Harry, however, wasn’t feeling cheerful. Professor Lupin had deliberately stopped him tackling the Boggart. Why? Was it because he’d seen Harry collapse on the train, and thought he wasn’t up to much? Had he thought Harry would **pass out** again?<sup>[62]</sup>



図 14 pass out cold の英米の出現時期

#### 4-15 pass up (the chance)

「[機会などを]逃す<sup>[63]</sup>」という意味を表す。図 15 から読み取れるように米国での出現から 20 年以上たって英国に入り込んでいる。AHD1 は 1800 年代の終盤に出現したと記載している<sup>[64]</sup>。図 15 からそのことが看取できる。

OED はこの慣用句を米国起源と明示している。この pass up には「登る, 上がる」といった他の意味もあるので, the chance を加えてグラフ表示した。

(29) Harry sat up straight, interested. It was not like Malfoy to **pass up the chance** to

demonstrate his power as prefect, which he had happily abused all the previous year. ‘What did he do when he saw you?’<sup>[65]</sup>

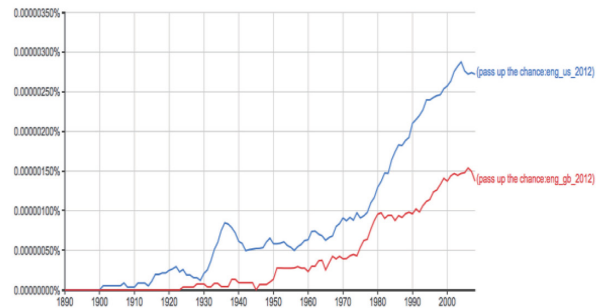


図 15 pass up the chance の英米の出現時期

#### 4-16 rub off on

OED は 1959 年に米国の小説家 Norman Mailer の *Advertisements for Myself* に記述された一文を初例としているが米国起源とはしていない。しかしグラフからも明らかのように米国発祥の慣用句である。「<性質などが>交際[接触など]によって...にうつる, 伝わる<sup>[66]</sup>」の意味である。AHD1 は 1900 年代中盤が出現時期としている<sup>[67]</sup>。図 16 を見るとその時期から使用頻度が急激に高くなっていることから, そうした記述になったのであろう。

(30) ‘I’d be careful if I were you, Potter,’ he said slowly. ‘Unless you’re a bit politer you’ll go the same way as your parents. They didn’t know what was good for them, either. You hang around with riff-raff like the Weasleys and that Hagrid and it’ll **rub off on** you<sup>[68]</sup>.’

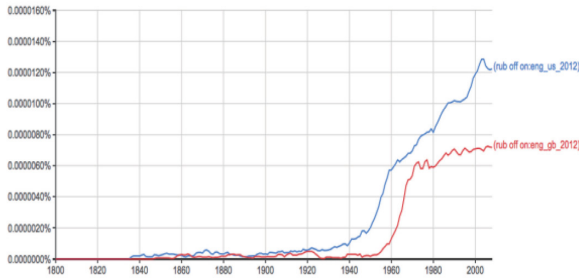


図 16 rub off on の英米の出現時期

#### 4-17 stick it up your ass

ここで使われている stick his wand (彼の魔法の杖を刺す) という表現は、米語の俗語 stick it up your ass (「...なんかくそくらえ [69]」) をもじったものである。Hermione が Ron のジーンズをつめたが、つめ過ぎて Ron が魔法の杖をポケットから取り出せないと苦情を言ったところ Hermione が、他に入るところ (お尻の穴) があるでしょうと呟いた場面である。

(31) Ron struggled for a moment before managing to extract his wand from his pocket. ‘It’s no wonder I can’t get it out, Hermione, you packed my old jeans, they’re tight.’ ‘Oh, I’m so sorry,’ hissed Hermione, and as she dragged the waitress out of sight of the windows Harry heard her mutter a suggestion as to where Ron could **stick** his wand instead [70].

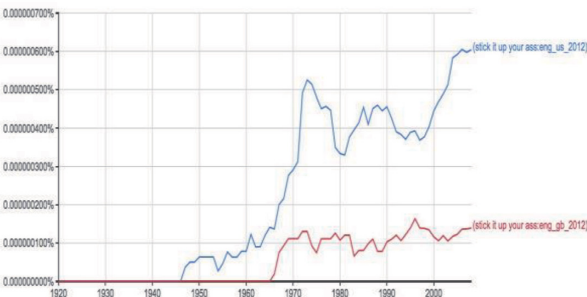


図 17 stick it up your ass の英米の出現時期

英国と米国の政治的、経済的、文化的な流れを考えると、これほど多くの慣用句が米

国から英国へと流入するのは自然な流れと捉えるのが妥当と言えるかもしれない。松田は『米語の衝撃』において、英国発祥の単語と慣用句の中で、米語に同化した例を挙げているので以下に引用する [71]。

このように顕著な米語のイギリス英語に対する影響と比較すると、せいぜい gadget (ちょっとした機械装置), gremlin (小妖精), dinner jacket (タキシード), dressing gown (化粧着), tell off (叱る), tick off (叱る) などを、その例として挙げ得るに過ぎない。

### 5 米語に入った英国起源の慣用句

前述の松田が挙げた慣用句の中で tell off は筆者も米国で幾度か耳にした。その他、*Harry Potter* シリーズで使われていて、米国における使用頻度は高くはないものの実際に同化しつつあると思われる 4 つの慣用句を以下に記す。これらは米国版において修正はなされていない。

#### 5-1 bang out of order

慣用句 bang out of order は「(人・ふるまいが) 受け入れられない、度を超して、失格で [72]」を表す。bang は強調語である。bang がない形は米国でもしばしば用いられる。使用頻度は高くないが、bang が付いた形も耳にすることがある。例(33)は米国の人気テレビ・ドラマのシナリオから引用したものである。

(32) She’s taken points off Gryffindor because I’m having my hand sliced open every night! How is that fair, how?’ ‘I know, mate,’ said Ron sympathetically, tipping bacon on to Harry’s plate, ‘she’s **bang out of order.**’ [73]

(33)

Derek: Good work. Take Ms. Smythe to interrogation. I have a few question I'd like to ask you.

Kendall: Sure.

Derek: Lieutenant Perry will do the honors if you take a seat right here.

Kendall: Ok. Ahem.

Aidan: I told you what was going to happen if this didn't stop, didn't I?

Zach: Yeah, you told me -- you were going to kill me. I remember.

Aidan: Right. Don't you think you've gone a little bit too far this time, Zach? This is **bang out of order**<sup>[74]</sup>.(原文のまま)

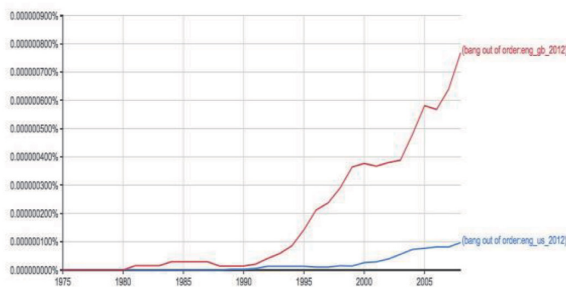


図 18 bang out of order の英米の出現時期

## 5-2 off one's rocker

慣用句 off one's rocker は *Harry Potter* シリーズでよく使われている。Rogers(1985) は rock は rocking chair に由来していると述べているが<sup>[75]</sup>, 諸説があり起源は明確でない。「頭がおかしくて、いかれて<sup>[76]</sup>」を表す俗語である。英国の俗語辞典 *Britslang* の著者 Ray Puxley はこの表現は同時期に出現した off one's trolley と同様に英国の俗語として記載している<sup>[77]</sup>。例(35), (36), (37), (38)及び (39)に使われているこの表現をグラフ表示したのが図 19 及び図 20 である。わずかに英国における出現が先行しているのが看取できる。OED は初例として 1897 年に発行された英国の新聞 *The Daily News* に記さ

れた次の文を挙げている。

(34) “When asked if he had swallowed the liniment, he said, ‘Yes, I was **off my rocker**.’”

また, Flexner はこの慣用句は米国において 1930 年代から用いられたとしている<sup>[78]</sup>。以下に *Harry Potter* から 3 例と SOAP に記載された米国のテレビ・ドラマのシナリオから例を挙げる。

(35) ‘That’s what I said, but Dumbledore thinks that – what was it? – “to the well-organised mind, death is but the next great adventure”.’ ‘I always said he was **off his rocker**,’ said Ron, looking quite impressed at how mad his hero was<sup>[79]</sup>.

(36) ‘Help yourself,’ said Harry, feeling slightly bemused. Ron and Hermione both started ripping open envelopes. ‘This one’s from a bloke who thinks you’re **off your rocker**,’ said Ron, glancing down his letter. ‘Ah well ...’<sup>[80]</sup>

(37) ‘Yeah, we were all surprised,’ said George, ‘because Percy got into a load of trouble about Crouch, there was an inquiry and everything. They said Percy ought to have realised Crouch was **off his rocker** and informed a superior. But you know Percy, Crouch left him in charge, he wasn’t going to complain.’<sup>[81]</sup>

(38)

Abby: I still haven't heard that job offer.  
Anthony: I will pay you to stay with Michael, to keep him happy. Not much different than what you're doing. In exchange, I want you to use your considerable influence and steer young Corinthos to me.

Johnny: Like I said before, my father's a little  
**off his rocker**. He spends most of his  
 days talking about his rose bushes[82].



図 19 off his rocker の英米の出現時期

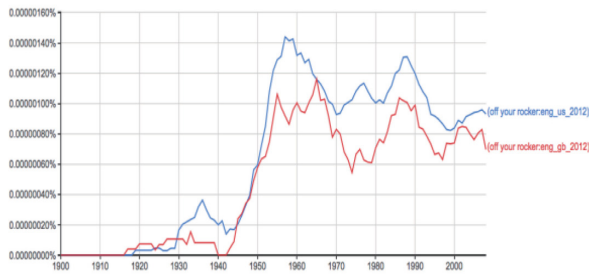


図 20 off your rocker の英米における出現時期

### 5-3 keep your hair on

keep your hair on は図 21 ではどちらが発祥か明確に看取できない。年代を絞り図 22 と図 23 を比較すると英国起源であることが看取できる。また Ray Puxley(2003)もこの慣用句を英国の俗語として記述している[83]。なお、この慣用句には keep your shirt on という形もあり、松田(1975)と OED 双方とも米国発祥としている。例(39)は COCA に記載されている米国の小説からの引用である。

図 21 の赤線が英国における keep your hair on の推移を、青線が米国におけるそれを、また緑色が米国での keep your shirt on を、橙色が英国のそれを表している。

(39) Their mother suddenly became very stern. 'I forbid you to ask him, Fred. No, don't you dare. As though he needs reminding of that on his first day at school.' 'All right, **keep your**

**hair on.**' A whistle sounded[84].

(40) The demon cocked its weasel head at him and moved a finger. The redhead was replaced by a naked, muscular young man with prodigious personal qualities. "Certainly not!" said Chesney. "You're wasting your time." He glanced at his watch. "And mine." "**Keep your hair on.**" said the demon. "I'll get a bead on you yet." Immediately, the boudoir was gone and they were standing in an office that struck Chesney as somehow familiar[85].

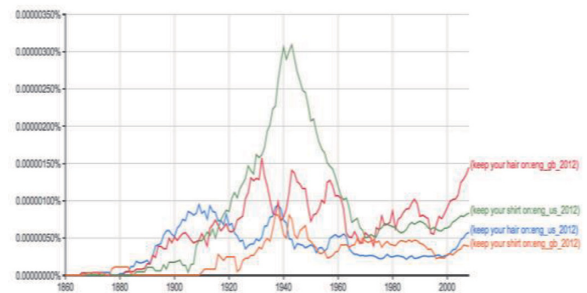


図 21 keep your hair(shirt) on の英米の出現時期

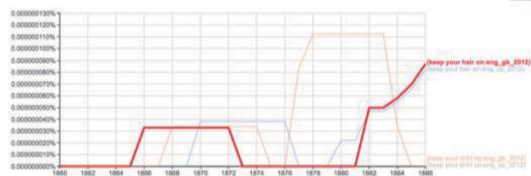


図 22 keep your hair on の英国の出現時期



図 23 keep your hair on の米国の出現時期

### 5-4 take the mickey out of

筆者が米国滞在中、数度耳にした慣用句である。「(...を)からかう,おちよくる,いじめる,侮辱する,ペしゃんこにする[86]」という意味で使われる。*Harry Potter* からの例文と米国の人気テレビドラマのシナリオから引用文を以下に記す。からかう対象を指

すときは *take the mickey out of (somebody)* となる。ちなみに全 7 巻を通して、同義語の *make fun of* が 4 ヶ所, *tease* は 2 ヶ所使用されている。

この *mickey* の語源について Patridge(1984)は、小用を足すという意味で使われた俗語の *Mickey* 或いは *Mike Bliss* が語源で、この慣用句は 1950 年ころから使われだしたと記述している<sup>[87]</sup>。出現時期は図 24 とほぼ完全に一致していることが看取できる。なお例(44)は SOAP からの引用である。

(41) Her prominent eyes swam with tears as she gasped for breath, staring at Ron. Utterly nonplussed, he looked around at the others, who were now laughing at the expression on Ron's face and at the ludicrously prolonged laughter of Luna Lovegood, who was rocking backwards and forwards, clutching her sides. 'Are you **taking the mickey?**' said Ron, frowning at her<sup>[88]</sup>.

(42) Every evening since Tuesday ... just on my own, though. I've been trying to bewitch Quaffles to fly at me, but it hasn't been easy and I don't know how much use it'll be.' Ron looked nervous and anxious. 'Fred and George are going to laugh themselves stupid when I turn up for the tryouts. They haven't stopped **taking the mickey** out of me since I got made a prefect.'<sup>[89]</sup>

(43) Fred and George wandered over. 'I haven't even got the heart to **take the mickey** out of him,' said Fred, looking over at Ron's crumpled figure. 'Mind you ... when he missed the fourteenth -'<sup>[90]</sup>

(44) Jana: Mm-hmm. See, I'll tell you, that

lawsuit was tainted from the start. Jack and Sharon tried to frighten Gloria into giving them the mansion -- bad karma. But your husband suing for revenge, well, that's a karmic bloody disaster. You see, the secret to good karma is compassion, fair dealing and, of course, honesty.

Kevin: And if you can fake that, well, then you've got it made.

Lauren: (Laughs)

Jana: Right, yeah. Okay, make fun. **Take the mickey**<sup>[91]</sup>.



図 24 take the mickey out of の英米の出現時期

2012 年 9 月 27 日版の *BBC News* (電子版)は“Britishisms and the Britishisation of American English”と題した記事の中で、Merriam-Webster の副編集者である Kory Stamper 及び OED の米国人無任所編集者 Jesse Sheidlower の言葉として次のように紹介している<sup>[92]</sup>。

Kory Stamper, associate editor for Merriam-Webster, whose dictionaries are used by many American publishers and news organisations, agree that more and more British words are entering the American vocabulary. (omission) There has also been “ a huge up-tick”, says Stamper, in the use of **ginger** as a way of

describing someone with red hair. She sees this clearly tied to the publication in the US of the the first Harry Potter book. **Dozens of words and phrases were changed** for the American market, but **ginger** slipped through.... (omission) We are not seeing a radical change to the American language, says Jesse Sheidlower, American editor at large of the Oxford English Dictionary—rather a “very small, but noticeable” trend.

このように米国の辞書編纂者が英国からの語彙と表現の流入を認めてはいるが、しかし *Harry Potter* で用いられた多くの語彙と表現が米国版で書き換えられた事実を述べている。そして Sheidlower は、その流入は「非常に小規模であるが顕著な流れ(very small, but noticeable trend)」としている。上記の 4 例もこのように解釈するのが適当であろう。

## 6 終わりに

今回の調査では、GBNV でグラフ表示した米国起源の慣用句が 17 例、英国起源のそれが 4 例の計 21 例において、明確にその発祥地がどちらであるか読み取ることができた。伊藤(2015)で見られた両国のグラフ線の出現時期が重なる現象は今回は皆無であった。グラフの上で出現時期が逆転することは今のところなく、GBNV の今回のような調査における信頼性はかなり高いと言える。

また、松田による文献調査で導き出された発祥時期の推測、及び Ammer (2013)が AHDI の中で記している時期とほぼ合致する例も多く、慣用句の発祥時期の特定に GBNV と AHDI を併用すると効果的であることが分かった。それに比して OED は orig. US の表示がない場合が少なくなく、こ

の点での信頼性に欠ける面が見られた。

伊藤(2015)が扱った 13 例と合わせて、筆者が小説 *Harry Potter* の中で米国起源であることを確認した慣用句の合計は 30 例にのぼる。それに対し、英国起源で米語に取り込まれたと確認できる慣用句は 4 例であった。松田が言うように「現代イギリス英語の米語に対する影響は、随分と影が薄い [93]」ことがはっきりと見て取れる。

本稿は Americanism という観点では、小説 *Harry Potter* の中で使用されている慣用句のみにして行った調査であり、さらに範囲を広げ網羅的に調査をした場合は、その数は相当数になると予想される。松田(1975)が取り上げたその数は 135 であることからそのことが容易に推測できる。本来であれば、この小説で使われている全ての慣用句を GBNV に打ち込み、グラフが描く線を見ながら確認していく作業が求められるのであろうが、紙面の制約があり、次の機会に譲りたい。

なお、本稿完成間際の 2016 年 8 月、*Harry Potter* シリーズの第 8 巻が出版された。第 7 巻が出版されてから 10 年の歳月が流れている。今後、第 8 巻の中に新しい Americanism を見ることができるか、あるいはこの間に新しい Britishism が米国に入っているかを調査する予定である。

## 使用したオンライン・コーパス

Davies, Mark. (2016) “New Corpus of Contemporary American English (COCA)”

<<http://corpus.byu.edu/coca/>>

(2016 年 7 月 31 日最終アクセス)

Google Books Ngram Viewer. (2013)

<<https://books.google.com/ngrams>>

(2016 年 7 月 31 日最終アクセス)

Davies, Mark. (2016) “New Corpus of American Soap Operas”



<<http://corpus.byu.edu/soap/>>  
(2016年7月31日最終アクセス)

## 引用文献

- [1]The Guardian, Nicholson, Bob. *Racy Yankee slang has long invaded our language*. (Issued on October 8<sup>th</sup>,2010)  
<https://www.theguardian.com/commentisfree/2010/oct/08/chillax-emma-thompson-slang-english-language>
- [2]松田裕(1975)『米語の衝撃—辞書の嘘—』大修館書店
- [3]松田裕(1983)「米語の衝撃再考(Ⅰ)—地域表示の再検討—」『英米文学語学研究』第54号, 関西学院大学, pp.83-125。
- [4]松田裕(1984)「米語の衝撃再考(Ⅱ)—地域表示の再検討—」『英米文学語学研究』第58号, 関西学院大学, pp.143-187。
- [5]松田裕(1985<sub>a</sub>)「米語の衝撃再考(Ⅲ)—地域表示の再検討—」『外国語外国文化研究』第6号, 関西学院大学, pp.1-85。
- [6]松田裕(1985<sub>b</sub>)「“A low profile”の軌跡」『時事英語学研究』第24号, 日本メディア英語学会, pp.15-22。
- [7]松田裕(1987)『米語のインパクト—当てにならない辞書の表示—』大修館書店
- [8]伊藤一正(2015)「コーパスを活用した英語慣用句の通時的研究—“before you can say Jack Robinson”を中心に—」『北海道情報大学紀要』第27巻, 第1号, 平成27年11月, pp.81-92。
- [9]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.1716。
- [10]Rowling,J.K.(2003) *Harry Potter and the Order of the Phoenix*, London: Bloomsbury, p.419.
- [11]Rowling,J.K.(2007) *Harry Potter and the Deathly Hallows*, London: Bloomsbury, p.267.
- [12]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.531。
- [13]前掲書。研究社, p.531。
- [14]Ammer, Christine(2013) *The American Heritage Dictionary of Idioms--American English Idiomatic Expressions&Phrases--*, 2<sup>nd</sup> edition, Boston: Houghton Mifflin Hartcourt, p.96.
- [15]Rowling,J.K.(2000) *Harry Potter and the Goblet of Fire*, London: Bloomsbury, p.792.
- [16]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.1040。
- [17]Rowling,J.K.(1999) *Harry Potter and the Prisoner of Azkaban*, London: Bloomsbury, p.344.
- [18] Rowling,J.K.(2003) *Harry Potter and the Order of the Phoenix*, London: Bloomsbury, p.354.
- [19]Ibid., p.625.
- [20]Rowling,J.K.(1997) *Harry Potter and the Philosopher's Stone*, London: Bloomsbury, p.55.
- [21]Rowling,J.K.(2003) *Harry Potter and the Order of the Phoenix*, London: Bloomsbury, p.95.
- [22] Ibid., p.903.
- [23]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.172。
- [24]Ammer,Christine(2013) *The American Heritage Dictionary of Idioms--American English Idiomatic Expressions&Phrases--*, 2<sup>nd</sup> edition, Boston: Houghton Mifflin Hartcourt, p.326.
- [25]Rowling,J.K.(2003) *Harry Potter and*

- the Order of the Phoenix*, London: Bloomsbury, p.256.
- [26]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.730。
- [27] *Cambridge Dictionary of American Idioms*. (2003) Cambridge: Cambridge University Press. p.106.
- [28]Rowling,J.K.(1999) *Harry Potter and the Prisoner of Azkaban*, London: Bloomsbury, p.399
- [29]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.818。
- [30]Rowling,J.K.(2000) *Harry Potter and the Goblet of Fire*, London: Bloomsbury, p.101.
- [31] Rowling,J.K.(2003) *Harry Potter and the Order of the Phoenix*, London: Bloomsbury, p.577.
- [32]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.1417。
- [33]松田裕(1985b)「“A low profile”の軌跡」『時事英語学研究』第24号, 日本メディア英語学会, p.17。
- [34]Rowling,J.K.(1998) *Harry Potter and the Chamber of Secrets*, London: Bloomsbury, p.215.
- [35]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.818。
- [36]Ammer, Christine(2013) *The American Heritage Dictionary of Idioms--American English Idiomatic Expressions&Phrases--*, 2<sup>nd</sup> edition, Boston: Houghton Mifflin Hartcourt, p.249.
- [37]Rogers, James.(1985) *The Dictionary of Cliches*,New York: Ballantine Books, p.173.
- [38]Rowling,J.K.(2003) *Harry Potter and the Order of the Phoenix*, London: Bloomsbury, p.205.
- [39]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.1634。
- [40]Ammer, Christine(2013) *The American Heritage Dictionary of Idioms--American English Idiomatic Expressions&Phrases--*, 2<sup>nd</sup> edition, Boston: Houghton Mifflin Hartcourt, p.250.
- [41]Rowling,J.K.(2003) *Harry Potter and the Order of the Phoenix*, London: Bloomsbury, p.15.
- [42]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.2374。
- [43]松田裕(1975)『米語の衝撃—辞書の嘘—』大修館書店, p.198。
- [44]Ammer, Christine(2013) *The American Heritage Dictionary of Idioms--American English Idiomatic Expressions&Phrases--*, 2<sup>nd</sup> edition, Boston: Houghton Mifflin Hartcourt, p.250.
- [45]Rowling,J.K.(2003) *Harry Potter and the Order of the Phoenix*, London: Bloomsbury, p.80.
- [46]Rowling,J.K.(1999) *Harry Potter and the Prisoner of Azkaban*, London: Bloomsbury, p.378.
- [47]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012)『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.293。
- [48]Partridge, Eric(1984) *A Dicitonary of Slang and Unconventional English*, London: Routledge, p.716.

- [49]Wentworth,Harold, and Stuart Berg Flexner, ed.(1975) *Dictionary of American Slang*, New York: Thomas Y. Crowell Company, p.61.
- [50]Rowling,J.K.(1997) *Harry Potter and the Philosopher's Stone*, London: Bloomsbury, p.315.
- [51]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012) 『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.586。
- [52]Rowling,J.K.(1999) *Harry Potter and the Prisoner of Azkaban*, London: Bloomsbury, p.239.
- [53] Rowling,J.K.(2000) *Harry Potter and the Goblet of Fire*, London: Bloomsbury, p.72.
- [54]Ibid., p.512.
- [55]Rowling,J.K.(2003) *Harry Potter and the Order of the Phoenix*, London: Bloomsbury, p.918.
- [56]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012) 『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.1741。
- [57]Ibid., p.1741.
- [58]Rowling,J.K.(1998) *Harry Potter and the Chamber of Secrets*, London: Bloomsbury, p.187.
- [59]Ibid., p.189.
- [60]Rowling,J.K.(2005) *Harry Potter and the Half-Blood Prince*, London: Bloomsbury, p.268.
- [61]Rowling,J.K.(1999) *Harry Potter and the Prisoner of Azkaban*, London: Bloomsbury, p.108.
- [62]Ibid., p.152.
- [63]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012) 『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.1741。
- [64]Ammer, Christine.(2013) *The American Heritage Dictionary of Idioms--American English Idiomatic Expressions&Phrases--*, 2<sup>nd</sup> edition, Boston: Houghton Mifflin Hartcourt, p.343.
- [65]Rowling,J.K.(2005) *Harry Potter and the Half-Blood Prince*, London: Bloomsbury, p.168.
- [66]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012) 『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.2044。
- [67]Ammer, Christine(2013) *The American Heritage Dictionary of Idioms--American English Idiomatic Expressions&Phrases--*, 2<sup>nd</sup> edition, Boston: Houghton Mifflin Hartcourt, p.382.
- [68]Rowling,J.K.(1997) *Harry Potter and the Philosopher's Stone*, London: Bloomsbury, p.120.
- [69]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012) 『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.127。
- [70]Rowling,J.K.(2007) *Harry Potter and the Deathly Hallows*, London: Bloomsbury, p.189.
- [71]松田裕(1975) 『米語の衝撃—辞書の嘘—』大修館書店 p.8。
- [72]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012) 『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.1685。
- [73]Rowling,J.K.(2003) *Harry Potter and the Order of the Phoenix*, London: Bloomsbury, p.354.
- [74]Davies, Mark. (2016) “New Corpus of American Soap Operas” <<http://corpus.byu.edu/soap/>> *All My Children* (2007-11-05)
- [75]Rogers, James.(1985) *The Dictionary of Cliches*,New York: Ballantine Books, p.219.

- [76]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012) 『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.2024.
- [77]Puxley, Ray.(2003) *Britslang*, London: Robson Books, p.353.
- [78]Flexner, Stuart B.(1976) *I Hear America Talking*, New York: Van Nostrand Reinhold Company, p.240.
- [79]Rowling, J.K.(1997) *Harry Potter and the Philosopher's Stone*, London: Bloomsbury, p.324.
- [80]Rowling, J.K.(2003) *Harry Potter and the Order of the Phoenix*, London: Bloomsbury, p.638.
- [81]Ibid., p.84.
- [82]Davies, Mark. (2016) “New Corpus of American Soap Operas”  
<<http://corpus.byu.edu/soap/>>  
*General Hospital* (2011-05-27)
- [83]Puxley, Ray.(2003) *Britslang*, London: Robson Books, p.278.
- [84]Rowling, J.K.(1997) *Harry Potter and the Philosopher's Stone*, London: Bloomsbury, p.108.
- [85]Davies, Mark. (2016) “New Corpus of Contemporary American English (COCA)”  
<<http://corpus.byu.edu/coca/>>  
Hughes, Matthew.(2009) *Hell of a Fix*
- [86]高橋作太郎・笠原守・東信行(編)(2012) 『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社, p.1507.
- [87]Partridge, Eric(1984) *A Dictionary of Slang and Unconventional English*, London: Routledge, p.1199.
- [88]Rowling, J.K.(2003) *Harry Potter and the Order of the Phoenix*, London: Bloomsbury, p.213.
- [89]Ibid., p.302.
- [90]Ibid., p.634.
- [91]Davies, Mark. (2016) “New Corpus of American Soap Operas”  
<<http://corpus.byu.edu/soap/>>  
*Young and Restless* (2008-04-22)
- [92]BBC News. (2012-09-27)  
<http://www.bbc.com/news/magazine-19670686>
- [93]松田裕(1975) 『米語の衝撃—辞書の嘘—』大修館書店 p.8。